

農務小學

高原銳一閱正  
石原吉孝著  
下

180  
6  
205

大日本教育會圖書室	
二	三
五號	六函
二冊	一架

541106  
25

B 21

2599



農務局高銳一閱正  
慶知縣石原吉孝著



# 農務小學

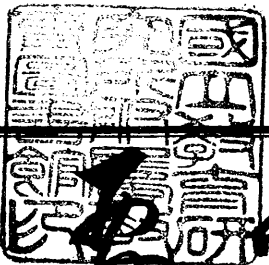
版權免許 栗田氏藏版



聖人知治國之

務相命民歸

心于農

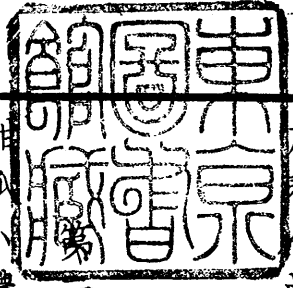


心于農

録  
徳  
子  
語

辛  
巳  
秋  
日

有  
名  
行



農務小學卷之下

東京府 高雲外 関

愛知縣 石原吉孝編輯

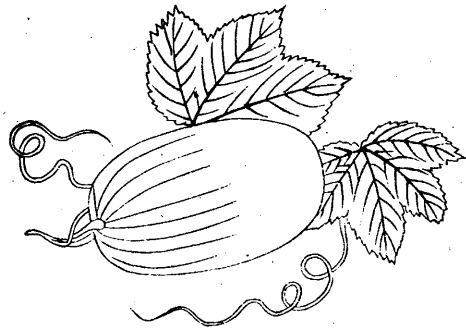
二十五 胡瓜

甜瓜ハ濃洲真桑村ノ産ヲ佳品トス、故ニ此  
名アリ○瓜ヲ植ウル地ハ、前年小豆ヲ植ウ  
ベシ、其次ハ、黍ノ跡モ亦好シ、其土地ハ、黒土、  
赤土、或ハ黄色ノ砂雜ハリテ、粘カ少キ地ヲ  
宜シトス、多クハ、肥沃ノ地ヲ好マズシテ、炎

農務小學

栗田 蔵

早ノ片、水ヲ灌グニ便ナル處甚ダ好シ、土地ノ肥沃ニシテ輕浮ナルハ、榮茂肥大ナルト雖モ、其味美ナラズ。○蒔ク時節ハ、春分ヨリ十餘日ノ後ト定メタレ、本年ノ寒暖ニ准スベシ。一番糞ハ、根ヨリ四五

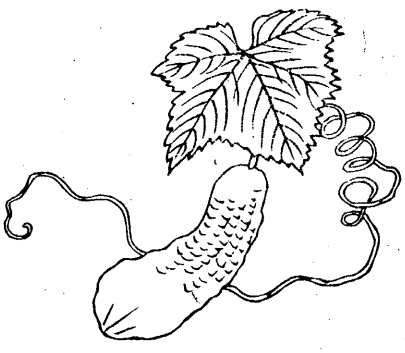


寸離レタル傍ニ、少シ長キ穴ヲ掘リ、濃キ糞汁ヲ之ニ滿テ、一二日モ乾カシ置キ、其能ク乾キタル片、其上ニ輕キ土ヲ以テ之ニ填ツ、其後、又此處ヨリ隔タル一、四、五寸許ノ處ニ、糞汁ヲ灌グナリ、是レ他ナシ、隔離セル地ニ、傍根ヲ引クハ、蔓ヲ隔地ニ彌蔓セシメンガ為ナリ。種子ヲ收ムルニハ、勝レテ、熟シタルモノヲ取り、其前頭ト、後部トヲ切り去リテ、中邊ノ

核ヲ貯フベシ、後部ノ核ヲ蒔ケバ、其肉ハ曲  
 リテ細シト云フ○瓜ノ物タル、極メテ老手  
 ナラデハ、肥實ナラシムル一能ハズ○冬瓜  
 モ亦、大概、甜瓜ニ同シ、清明ノ節、其苗ノ長大  
 ナルヲ取リテ、移シ植ウベシ、凡テ、瓜類ハ、苗  
 床ヲ作り、蒔キテ後チ、苗ヲ移シ植ウルモノ  
 トス

第二十六 胡瓜

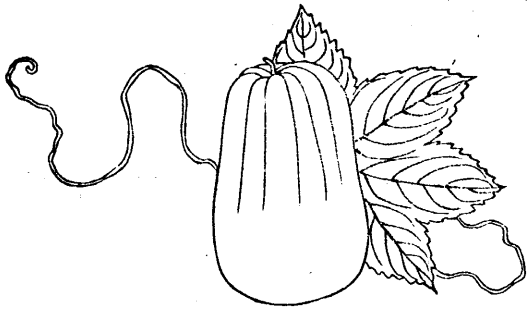
胡瓜ハ、早熟ノ瓜ニテ、諸瓜ニ先チテ、之ヲ收



ムル一ヲ得ルナリ、種  
 子ヲ取ル一ハ、他瓜ニ  
 同ジ、之ヲ取ルニハ、中  
 生ヲ好シトス、初生ハ、  
 種子少ク、之ヲ植ウル  
 モ、多ク實ヲ結バズ、之  
 ヲ蒔クハ、立春ヨリ、清  
 明マデノ、新月三四日  
 前ニ在リトス

第二十七 菜瓜

菜瓜モ亦甜瓜ニ同ジ  
ク、之ヲ蒔クニハ、春分  
前ヲ宜シトス、此物沙  
地、又ハ海岸新田等ノ  
地ニ宜シ、早ク肥糞ヲ  
施シ、實ヲ結バシメテ、  
市中ニ販クベシ、早熟  
ノモノハ、酒肉店ニテ、



之ヲ俗ニカミナリボシト唱ヘ、刀ヲ以テ螺  
切シ、炎日ニ曝シテ、客ノ下物ニ供フガ故ニ、  
潤利多シ、又晩熟ノモノハ、之ヲ俗ニカリモ  
リモリト云ヒ、糟藏ニ充ツルヲ以テ、其利亦  
多シ、然レモ、土地ニ據リテ、生長セズト云フ、  
能ク考フベシ

第二十八 西瓜

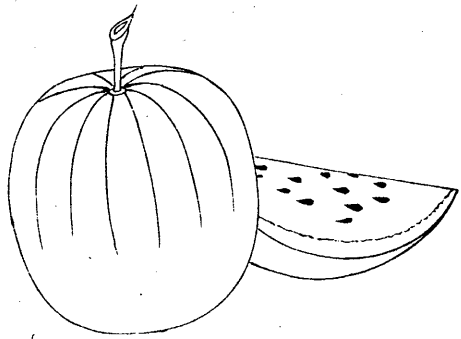
西瓜ハ、深キ沙地ニ肥料ヲ厚クシテ、培養ス  
レバ、一本ノ蔓ニシテ、十二三ノ結實ヲ得ベ

シ、蒔ク時節ハ、甜瓜ニ同シ、土地ハ、南向ノ肥  
 タル砂地ヲ好ム、肥糞ノ法至テ難シ、其法、或  
 ル一方ヨリ根ノ前頭赤、違シ得ベカラザル  
 處ニ於テスベシ、然スレバ、根能ク其處ニ來  
 ルナリ、是ヨリ後ハ、又其方向ニ於テ前条ノ  
 如ク、肥糞ヲ施シ、漸次斯ノ如クナシテ、廣ク  
 根ヲ一方ニ引キ出スベシ  
 西瓜ハ、蘿蔔ヲ種ウル、餘地ナキ處ニテハ、之  
 ヲ培養スベカラズ、如何トナレバ、地ノ空閑

極メテ遅キニ由リテ  
 ナリ、故ニ、西瓜ノ熟後  
 ハ、早ク抜キ取リテ、蘿  
 蔔ヲ蒔クガ如キハ、其  
 利多シトス、相州小田  
 原、攝津新田ノ産ハ、漿  
 多クシテ、美味ナリ

第二十九 番南瓜

番南瓜ハ、從來世人、南瓜ト誤リ呼ベリ、今番



南瓜ト呼ブモノハ、即チ南瓜ナリ、獨リ東京ニテ呼グ所ヲ正シトス、此物ハ、長ク蔓延スルモノナルカ為メ、好キ田圃ニ種ウベカラズ、唯宅地ノ肥地ニ植エ、小舎ノ屋宇ニ縁ラスベシ、然セザレバ、實ヲ結ブ少ナシ、又雄



花ヲ取りテ、雌花ト交接セシムレバ、肥大ナル實ヲ結ブベシ、是レ即チ媒助法ナリ  
此外、瓜類ニ丝瓜、瓠等アリト雖モ、收利甚ダ薄シ、故ニ此ニ列載セズ

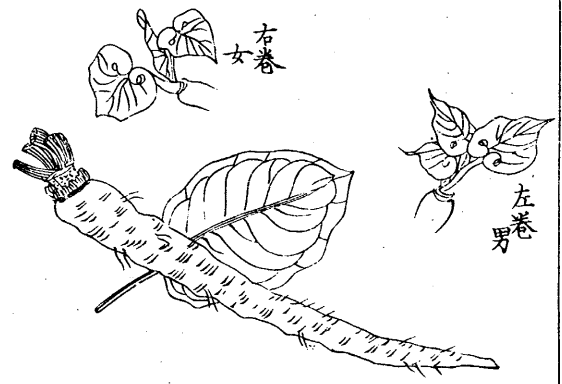
第三十 牛蒡

牛蒡ハ、細軟砂ノ深キ地ヲ宜シトシ、種子ハ、一畝ニ、一合ヲ中分トス、蒔時ハ、春分前ヲ然リトス  
之ヲ掘ルニハ、冬月ニ至ルモ妨グズ、麥畠ニ



要スルヲアレバ、早ク振ルモ害ナシ

種子ヲ收ムルニハ、秋  
ニ入り、子實黒クナリ  
タル片、之ヲ外リ取り  
按ミ碎キテ、殻ヲ離ス  
ベシ  
牛蒡、蘿蔔、麻ハ、舊地ヲ  
好ムモノナリ種子ハ、  
陳久ナルヲ好シトス、



本年ノ新實ハ惡シ、隔年ノモノヲ用フベシ、  
又蘿蔔ノ如ク、植エ置キテ、種子ヲ取ルモ妨  
ゲズ

第三十一 萬苴

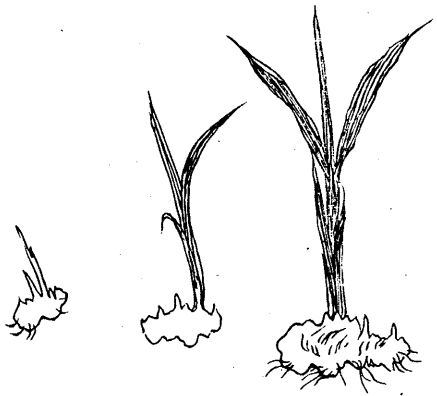
萬苴ニ各種アリ、獨  
リ其葉圓クシテ廣  
ク、蒼遅クシテ、大暑  
ノ節モ、猶繁盛ナル  
モノヲ好シトス



大暑ニ、種子ヲ取り置キテ、秋分マデニ蒔クベシ、立冬ヨリ立春ニ至ルノ間、漸ク逐フテ植エ、四時共ニ食フベシ。○種子ヲ取ルニハ、花開キテ實ヲ結バントスル片、幹頭ヲ屈折シテ置カザレバ、蜂蝶、花葉ヲ吸ヒ去リテ、結實少シ

第三十三 薑

清明ノ頃根ヲ植ウベシ、立秋ノ後ニ至レハ、根薄赤ク其色紅ニ深ムルガ如シ、之ヲ紫薑



ト云フ、膳羞ニ用ヒテ好シ、寒霜ノ頃、掘取ルヲ得タリトス、立冬ニ至リテ掘リ取レハ、其味極メテ辛シトス

第三十三

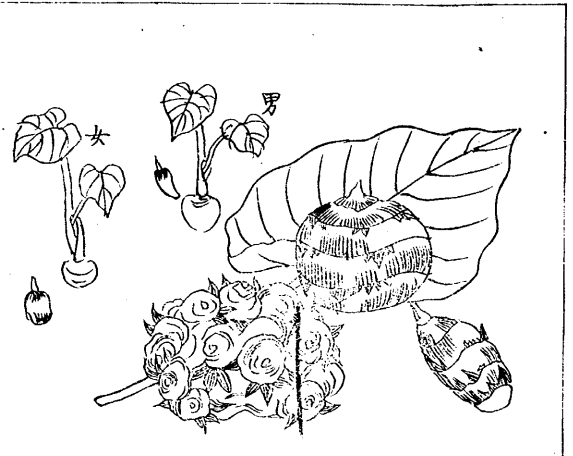
青芋 九面芋

紫芋

芋ニ各種アリ青芋九

面芋ハ、露子ヲ食ヒ、紫芋ハ、莖及ビ魁頭ヲ食  
フ

種法總テ同ジ、之ヲ種  
ウルニハ、穀雨ノ頃、麥  
畑中ニ穴ヲ五眠ニ掘  
リ、芽ヲ下ニシ、每一個  
之ヲ入レテ、土ヲ覆ヒ、  
然メ陳キ筵席ノ斷片  
等ヲ以テ、覆ヒ置クベ



シ、紫芋ヲ除クノ外ハ、秋末ニ至リ、悉ク莖ヲ  
撿メテ、土ヲ覆ヒ置ケハ、根能ク肥エベシ、但  
シ其古キ葉ハ、悉ク攫キ取ルベシ、然シテ霜  
降ノ頃、掘リ取りテ之ヲ收ム  
凡ソ芋ノ種類ハ、地ニ應ズレバ、人カニ由リ  
テ、何レノ災患モ逃ルベク、實ニ凶年ヲ支フ  
ル食物ナリ○此物、舊地ヲ忌ムガ為メ、二三  
年ヲ隔テ、地ヲ交換スヘシ、又竹林ヲ開墾  
シテ種ウル、最モ妙ナリ

第三四 薯蕷

薯蕷ハ、根ヲ食フベキ  
品類ニ於テ、最上ナリ  
トス  
之ヲ種ウルニハ、畝ニ  
長キ溝ヲ掘リ、深サ廣  
サトモ、各二尺許ニシ  
テ、牛馬ノ糞汁ト、土ト  
ヲ合セ、溝中ニ、過半入レ置クベシ



種子ヲ種エントスルニ先タチ、薯蕷ノ肥ヘ  
テ長ク、皮ノ薄キモノヲ撰ミ、竹刀ニテ之ヲ  
一寸許ニ切り、切口ニ灰ヲ塗リテ、二三日モ、  
乾カシ置クベシ、此時、手ヲ以テ、種子ニ觸ル  
ト忌ムナリ  
種子ヲ取り出セバ、溝中ニ六七寸毎ニ相隔  
テ、之ヲ横ニシ、其上ヨリ糞ト、土トヲ合セ、三  
寸許掩ヒ置クベシ、薯蕷ハ、人糞ヲ忌ムト云  
フ説アレバ、今時ハ、巨大ナル棒ニテ、深キ穴

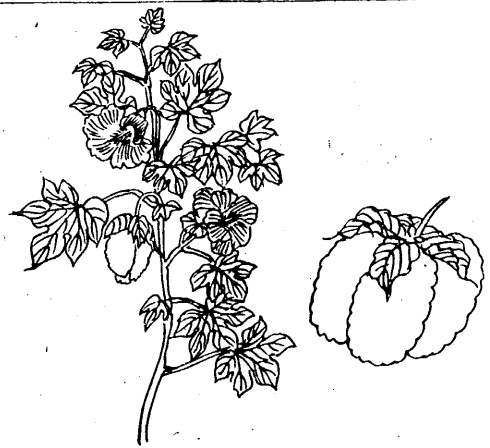
ヲ穿テ、其穴中ニ人糞ヲ填テ置キ、之ヲ乾カシタル後、灰ヲ入レテ種ウルヲ好シトモナセリ  
蔓ノ出ルヲ待チテ、竹或ハ柴等ヲ植テ、又ハ籬ヲ結ビテ、之ヲ纏ハス<sub>一</sub>アリ、悉ク蔓ノ前頭ヲ摘ムベシ○肥糞ノ法ニ由リテハ、潤利過分ニアルモノナリ、霜降りテ後掘リ取ルベシ、久シク畝ニアルニ隨テ、根ノ深ク入ルモノナリ

掘リ取ル<sub>一</sub>ハ、先ヅ畦ノ一方ニ、溝ヲ穿テ、根下ノ土ヲ徐々ニ取リ去リ、一本毎ニ折レザラシムベシ

### 第三五 草綿

綿ハ、古代漢土ニモ無カリシカ、中古宋朝ノ時ニ至リ、南蠻ヨリ、種子ヲ取り來ルヲ以テ始トス、本朝ニモ、其種子ヲ得テ、今普ク之ヲ種ユ、東西南北、國トシテ宜シカラザルハナシ、殊ニ河内、和泉、攝津、播磨、備後ヲ最トス、此

外肥饒ナル処ニ植エテ、甚ダ潤利多シ  
 漢土ニハ、木ト、草ノニ  
 種アリ、木ハ、周圍一尋  
 許、幹桐ニ似テ、葉ハ胡  
 桃ノ如シ、秋ニ入りテ  
 花ヲ開キ、實ヲ結ブ、其  
 大サ拳ノ如シト傳ヘ、  
 今見ル所ノ者ハ、草ナ  
 レ、亦木綿ト云ヒ、又



木ハ、其功劣ルト見ヘテ、草綿ヲ裁ウルト云  
 へリ

綿ハ、先ツ種子ヲ撰テ  
 一專一ナリ  
 種子ニ數品アリ、白花  
 ノ神樂、黄花ノ神樂、是  
 レ優品ナリ、紅葉綿ノ  
 花ニ、黄、白アリ、又赤綿  
 ノ大コクビ、又チンコ



等アリ、皆好種ナリ、但シ土地ニヨリ、適合ス  
ルモノナリト考フベシ、赤綿ノ「ノラト云フ  
モノアリ、榮茂シ易ク、且ツ巨大ナルモノナ  
レ、凡、結實少ク、綿モ亦少シ、然レ凡、絲ハ強シ、  
山城ニ、麻綿ト云フモノアリ、葉麻ニ似テ好  
キ種子ナリ、又茶綿アリ、深メザルニ、自ラ茶  
色ヲ帯ブ、又近年舶来ニ二種アリ、其一ハ、子  
實綿絮ヲ帯ビ、其一ハ、帯バス、其帯ブモノハ、  
幹枝共巨大ニシテ結實多シ、然レ凡、氣候ノ

異ナルニ從ヒ、秋氣ヲ催ス片ハ、實熟セズメ  
破レズ、故ニ清明後蒔キテ、早ク肥料ヲ多量  
ニ加ヘ、而メ後ハ肥糞ヲ灌グベカラズ、然ス  
レバ、早ク熟スルナリ、  
蒔時ハ、立夏十日前ヲ上時トシ、立夏後ヲ中  
時トシ、小滿後マデハ、蒔キテ妨グズ、又以時  
ヨリ、十日、十五日モ、早ク蒔キテ生長スベシ、  
處暑ニハ、一二個ノ實、開破スルモノナリ、  
海邊ニテ、陽ニ向ヒ、風氣疎通ノ處ハ、勝レテ

宜シ、地味ヲ察シテ種ウレハ、過分ノ收穫アルベシ

種子ノ分量ハ、凡ソ一反ニ、一貫目、或ハ一貫五百目ナリ、但シ地方ニ依リテ、異同アリトス

凡ソ蒔ントスル片、種子ヲ水ニ浸シ、灰ヲ雜ヘテ揉合セ、一粒毎ニ、能ク分レシメテ、蒔クベシ

肥料ハ、先ツ棒糞トテ、二葉ノ生ジテ、相齊シ

キ片、畦中ノ苗、少シ傷ムヲ厭ハズ、其間四五寸モ離レ、尖リタル棒ノ頭ニテ、深サ四五寸ノ穴ヲ穿テ、其穴中ニ、乾鰯、或ハ油糟ニテモ、填滿スベシ、乾鰯ノ巨大ナルハ、粗ク切り、其中ナルハ、必ズシモ之ヲ切ラズ、油糟ハ、粉末トナシテ入ルベシ、是ヲ棒糞ト謂フ、其後、又十四五日モ過ギテ、一方ノ脇ニ筋ヲツケテ、肥糞ヲ入ルベシ、又十日ヲ經テ、反對ノ一方ニ、筋ヲツケテ、上ノ如クスベシ、兩度トモ、肥



糞ヲ入レテ、直チニ土ヲ以テ之ヲ覆フ、是ヲ  
腹糞ト謂フ

凡ソ夏至ヨリ、十日ヲ過クルマデニ、肥糞ヲ  
三度入ルベシ、牛、馬ノ糞、焼肥、河泥ハ、糞耕ス  
ルニ、始終五六度モ入ルベシ、其最初糞耕ス  
ル片ニ、巨大ニ過ギタルモノハ、之ヲ抽キ去  
ルベシ、其幹頭ヲ摘ムハ、凡ソ一反ノ中ニ、  
花ノ兩三個開キタルモノヲ見認め、其高ク  
舒タルモノハ、二三寸毎ニ之ヲ切ルベシ、漢

土ニテハ、枝頭ヲモ摘ムト、別書ニ見ヘタレ  
ル、我邦ニテハ、専ラ幹頭ノミヲ摘ムナリ  
一株ニ、枝六七本、好キ地ニハ、八九本モ着ク  
ベクスベシ、其高サ、凡ソ二尺ヨリ高カラシ  
メズ、然メ地所少ク、幾年モ同地ニ作ラバ、川  
砂ヲ下ニ敷キ、地氣ヲ轉ズベシ、但シ、二葉發  
生ノ頃ヨリ肥糞ヲ入レ、心葉ヲ見ルニ隨ヒ、  
數回糞耕シテ、其間隔ヲ遠ク離シテ抽クベ  
シ、少シモ草葉ヲ畦ノ中ニ留メズ、淨ク掃除

スベシ

第三十六 苧麻

苧麻ハ、葉、楮ニ似テ表  
青ク、裏白クシテ毛ア  
リ、夏、秋ノ間、細穂ヲ出  
シ、黄色ノ花ヲ開クモ  
ノナリ  
春分之ヲ蒔キテ、少シ  
ク土ヲ覆ヒ、又其上ニ



少シク糠ヲ覆ヒ置キ、且ツ之ヲ耘ルニ墮ヒ、  
直ニ肥糞ヲ下スベシ、是レ年々宿根ヨリ生  
セシムルカ爲メナリ、而メ翌年苗ヲ切り取  
ルヲ、苗拂ト云フ、而ノ肥糞ヲ多ク入レ、三年  
ニ至リテ、刈取ルモノトス、其法、芒種ニ一鎌、  
大暑ニ一鎌、白露ニ一鎌ト定メテ、三度ニ刈  
取ルモノナリ、大暑ノ刈取ヲ上トス○初年  
一尺許ノモノハ、之ヲ切りテ去ルベシ、二年  
ニシテ、長ク伸ビタルモノヲ、刈取りテ用ウ

ベシ、其五七年モ過ギテ、能ク榮ユルモノハ、  
 高サ七八尺ニ至ラン、剥キ取ルハ、莖ノ中  
 部ヨリ折レバ、皮ハ二筋ニナリテ、木ハ木末  
 トモニ脱キ易キモノナリ、其皮ヲ水ニ浸シ、  
 竹カヲ以テ、内面ヨリ摩レバ、上皮大ニ脱ゲ  
 易シ、善ク之ヲ摩リテ、其後上、中、下ノ三等ニ  
 分チテ、之ヲ晒ラシ、其全ク晒シタルモノハ、  
 斤量百目ヲ以テ、一把トナスナリ  
 苧麻ノ葉、及ビ根ヲ碎キ、播リテ癰疽ニ塗レ

ハ、膿毒消散シテ、癒ルハ妙ナリト傳ヘリ

第三十七 麻

麻ハ、良土ヲ好ム、故ニ  
 中分以下ノ畝ニハ種  
 ウベカラズ、野老ノ言  
 ニ、十耕蘿蔔、九耕麻ト  
 テ、九度モ耕スヲ以テ、  
 好シトス  
 種子ヲ撰ムニ當リテ、



白キモノヲ、雌ナリト定メタレバ、嚙ミテ之ヲ試ルニ、輕クシテ、濕氣ナキモノハ批ナリ、用フベカラズ、其白クシテ、堅キモノヲ以テ好シトス

第三十八 甘藷

甘藷ヲ栽ウルニ通常ノ畠ニ之ヲ栽ウレバ、



鼯鼠來リテ、多ク食スルモノナリ、故ニ瓦ヲ周邊ニ繞ラシ、其内ニ糞土ヲ十分ニ入レ、種子ヲ、鶏卵ノ大サニ割り、毎六七寸ノ間隔ヲナシテ之ヲ栽エ、其後傍ヨリ、肥糞ヲ入ルベシ、牛馬糞ノ如キ、土ヲ軟和ニスルモノヲ以テ、之ヲ覆ヒ置ケバ、瓦ノ在ル所ノ處ハ、皆甘藷トナルモノナリ、務メテ鼯鼠ノ害ヲ防ゲバ、頗ル潤益アルモノニシテ、凶年飢饉ヲ救助スル一、米穀ニ劣ラス○種子ニ蓄へ、且ツ

栽エントスル所置等ハ、一ニ薯蕷ニ同シ

第三十九 零餘子

零餘子ハ、薯蕷、甘藷ヨ  
リ取ルベシ、其子實ノ  
能ク熟シタル片、莖等  
ヲ其下ニ敷キテ、之ヲ  
振ヒ落シ、後又熟スレ  
バ、又前ノ如クナシテ  
取ルベシ、之ヲ貯ヘ置



クニハ、地ヲ掘ル一、深サ二尺許、周圍ニ竹、又  
ハ瓦ノ如キモノヲ繞ラシテ、鼯鼠ヲ防ギ貯  
フベシ、大ニ食糧ノ缺乏ヲ補フモノナリ  
零餘子ヲ掘取り、肥地ニ移シ栽レバ、漸次肥  
大藪トナルハ、疑ヒナシ

其量五六合ト雖モ、能ク心ヲ留メ、鼯鼠ノ防  
ヲナシ、又能クカヲ培養ニ盡セバ、過分ノ山  
藥ヲ得ベシ○零餘子ヲ、多ク取ルニハ、肥大  
ナル山藥ヲ栽エ、蔓頭ヲ摘マズシテ、虫ヲ除

キ去ルベシ

第四十 蕃薯

此物ニ二種アリ、一ヲ蕃薯ト云ヒ一ヲ山薯ト云フ、蕃薯ハ形圓クシテ長シ、山薯ハ芋魁ノ如クシテ味劣レリ

蕃薯ハ其色淡紅ナリ、皮薄ク、肉潔白ニシテ甘シ、多ク裁テ食料ノ不足ヲ補ヒ、又糕餅ニ代ヘテ用フベシ、薩摩長寄ニモ琉球芋、又赤芋トテ、多ク裁ウルヲ以テ、薩摩芋ノ名称アリ、之ヲ植ウル法、清明後、昨年来貯ヘ置タル薯種ヲ取り出シ、先ツ肥土ヲ、二尺許モ平地ヨリモ高ク堆起シ、一ツ毎ニ裁エ置キ、此時狐ヲ防ク、專要ナリ、而メ芽ヲ出ス片、肥糞ヲ灌グベシ

蔓ノ長サ二尺許ナルヲ待チテ、之ヲ刈取り、蔓ノ兩節ヲ連ネテ、切り置キ、畑ノ成ルヲ待チテ、一尺許ノ間隔ヲ離シテ、挿スヘジ掘り取ル、冬ノ頃マデ、畝ニ置ク、氏、更

ニ損傷スルヲナシ、但シ一度霜ヲ經タレバ、  
 魁根ハ、種子ノ用ヲナ  
 サズ、又久シク貯フル  
 ニ耐ヘズシテ腐敗ス、  
 注意スベシ

蕃薯ノ物タル、凶年ニ  
 ハ、風雨早暵ノ難害ヲ  
 受ケザルモノタレバ、  
 五穀ノ外、塊根ニシテ、



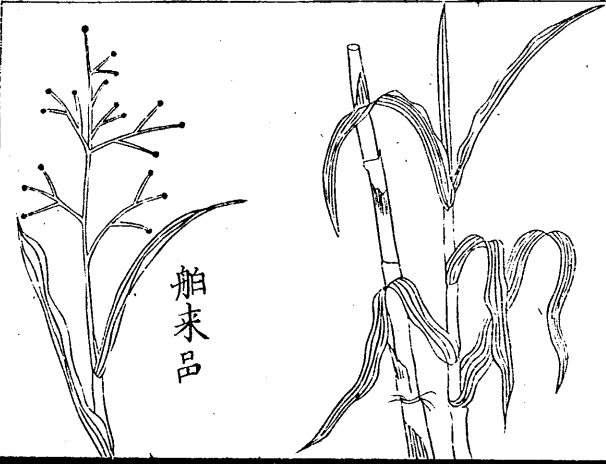
能ク之ニ及ブモノ無シ、

蕃薯ハ、種子ノ收貯ニ注意スレバ、之ヲ栽ウ  
 ニ於テ、別ニ辛苦ナキモノトス

第四十一 甘蔗

甘蔗ハ、其葉蔗苡仁ニ似タリ、近年ハ、砂糖ノ  
 製造精密ニナリタレバ、多ク諸國ニ産ス、種  
 子ヲ取ルニハ、其十分成熟シタル莖ヲ取り、  
 收メ置キ、將サニ栽ントスル片、一節ヲ帶バ  
 シメ、之ヲ切り、苗場ニ栽工置キ、新芽ノ出ス

ルヲ待チテ、肥糞ヲ灌  
 ギ、而メ芽長サ三寸許  
 ナルモノヲ、畝ニ移シ  
 植ウベシ、肥糞ハ、乾糞  
 ノ類ヲ宜シトス、人糞、  
 桶糞ハ、カノ薄キヲ以  
 テ宜シカラズ、務メテ  
 多ク乾糞ヲ入ルベシ  
 砂糖ヲ製スルハ、種々アリ、而メ器械ヲ以



舶来品

テ、精製スルガ如キハ、言繁雜ニ涉ルヲ以テ、  
 之ヲ略ス

第四十二 藍

藍ノ苗地ハ、蕪菁、蘿蔔ノ跡ヲ、宜シトス、沃土  
 ト、灌水ノ便利ヲ考ヘテ、三四度モ耕シ置ク  
 ベシ、啓蟄ノ頃、先ツ種子ヲ水ニ浸シ、芽ヲ出  
 サシメテ後チ、之ヲ蒔クベク、是レヨリ後ニ  
 十日許ニシテ、肥糞ヲ灌キ、其後新葉ヲ出セ  
 バ、再ビ四分糞濃キ糞ニ、濁水六分ヲ灌ギ、然



ノ六十日餘モ過ギテ、  
 畠ニ移シ植ウベシ、畦  
 ノ幅、三尺五寸モアラ  
 バ、一株ニ二本、三木ヲ  
 植エ、横筋ニハ、八株許  
 モ栽ウベシ、之ヲ田ニ  
 作ルモ、亦畠ニ同シ○  
 植エテ後チ、三日餘モ  
 雨アラザレバ、頻ニ水ヲ灌クベシ、栽エテ後



十五日ニシテ、桶糞ニ拘ハラズ、之ヲ多量ニ  
 入ルレバ、色隨フテ宜シ、乾鰯ハ、殊ニ良シ  
 虫ヲ驅ル一ハ、藍ヲ栽エテ後、第一ノ辛勞ナ  
 リト雖モ、之ヲ他人ニ委ネテ、怠ルベカラズ、  
 其法、苦參ノ根ヲ碎キ、水ニ浸シ置キタルモ  
 ノヲ灌グベシ、又、葦葉ノ莖モ、苦參ニ代ヘテ  
 之ヲ用フ、而シテ六十日過レバ、小暑前ナリ、此  
 時能ク天氣ヲ考ヘ、之ヲ刈リ收メテ乾ス、  
 麥ヲ曝スガ如クスベシ、且ツ午後ヨリ收メ、

集メズ、翌日ニ至リ、根ハ、其葉際ヨリ切り除キ、葉ハ、壁麻蕒ヲ切ル如ク細ニ刻ミ、葉ト、莖トヲ簸分ケ、莖ハ之ヲ棄ツベシ、然ル後、水中ニ入レテ取り出シ、厚サ四五寸許ニ廣ゲ、蕒莖ヲ以テ之ヲ覆ヒ罨セ、四五日ノ後、白醜ノ見ユル片、取り出シテ、日ニ乾シ、草包ニ入レテ販クベシ、又或ハ能ク乾シテ、臼ニ入レ搗キ細末ニシ、之ヲ篩ヒ、其粗キモノハ、又之ヲ搗テ、莖ヲ去リ、團餅ニ作りテ、賣ルモアルナ

リ、且ツ種子ニ數品アリ、唐藍ノ葉ハ、楕圓ニシテ厚ク、莖ハ薄赤クシテ、其色愛スベシ、又葉ノ圓キモアリ、此二種、物ヲ染ルニ好シ、又蓼藍ハ、葉細長クシテ蓼ニ似タリ、此物、土地ヲ擇ハズシテ、蕃榮シ易スケレト、染付惡シシ

### 第四十三 紅花

紅花ハ、專ラ肥饒ノ地ヲ好ム、冬至前ニ之ヲ蒔クベシ、又中秋ノ頃、酒ニ浸ス一一夜ニシ

テ、蔞ク片ハ、灰、或ハ焼土ニ種子ヲ合セテ蔞  
 クベシ、而メ厚ク蔞キ  
 置キ、濃厚ナル肥糞ヲ  
 灌ゲバ、枝幹屈曲シテ  
 笑ヲ發出セズ、故ニ粗  
 ク蔞クベシ  
 花ヲ摘ミ取ルハ、日出  
 前ニ於テスベシ、花發  
 クト雖モ、色黄ニシテ

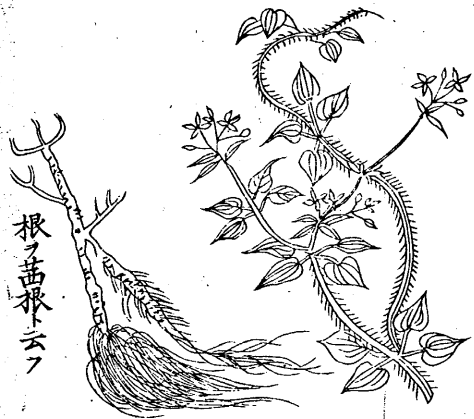


一花ヲ分ツテ  
 全形ヲ示ス

外ニ垂レザルモノハ、之ヲ取ルベカラズ、然  
 シテ之ヲ摘ミ取レバ、細ニ刻ミ臼ニテ搗キ、  
 清水ニ浸シ、直ニ之ヲ取り出シテ搾リ、清潔  
 ナル筵ノ上ニ攤ゲ、草ノ葉ヲ以テ掩ヒ、日光  
 風氣ノ當ラザル處ニ、二三日モ置キ、少シ色  
 ヲ生ジ、白醜ノ出ルヲ見テ、團塊ニ作り、以テ  
 日ニ乾カスベシ、又子實ヲ許多收メ置キテ、  
 之ヲ搾レバ、燈油ヲ得ベシト云フ○肥料ハ、  
 油糟、乾糞、鶏糞等ヲ用フベシ

第四十四 菑

菑ハ、山野ニ自生スルモノ多シ、然レ氏、之ヲ

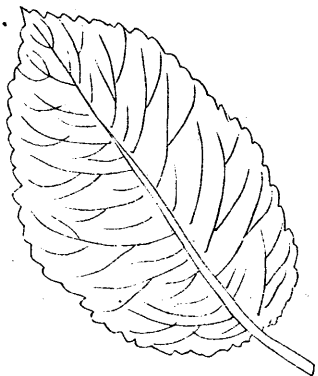


畠ニ栽ウルニシカズ、清明ノ後、種子ヲ蒔キ、培養スルニ随フテ生  
長ス、寒露ヨリ、霜降マ  
デニ其根ヲ掘リ取り  
テ、深草トナスベシ  
種子ヲ收ルルハ、寒露

ノ後、其色黒クシテ、逆  
シリ落ントスル片、之  
ヲ收メ、日ニ乾カシ、草  
包、或ハ竹箆ニ納メ置  
クベシ  
以上ノ三種ヲ名ケテ、  
三草ト謂フ

第四十五 苳

苳ノ種子ヲ下スハ、春



分マデヲ定期トス、其長サ二寸許ニナル片、  
移シ植ウルナリ  
地ハ、麥畑ノ中、又ハ、其收納シタル跡モ亦妨  
ナシ、而メ、赤土ニ細沙雜ハリテ、少シク小石  
アリ、土性ノ強剛ナル處ニ、栽エタルモノハ、  
色味共ニ宜シ、服部ノ如キハ、専ラ之ヲ田圃  
ニ栽ウルナリ、上好ノ莢ハ、肥料ニ、胡麻ノ油  
糟ヲ用弁テ、能ク肥長スレドモ、受火惡シク、  
香氣宜シカラス

風雨ニ、倒レ易キモノナレバ、四五寸許モ、深  
ク培壅スベシ○葉ハ、大概十二三枚、或ハ十  
七八枚ト定タレト、吉野ノ産ハ、二十枚ニ  
過グ、其香味ノ勁烈ヲ好メハ、葉十枚ニ過グ  
ベカラズ

虫ヲ驅リ、芽ヲ掘キ取ル、第一ノ辛苦ナリ、  
毎日出前ニ於テスベシ、敢ヘテ怠ルベカラ  
ズ、是レ他ナシ、太陽既ニ出レバ、虫ハ、葉ノ裏  
面ニ、潜伏スレバナリ、其枝幹ノ、前頭ヲ摘ム

一ハ、大暑ノ後、十分ニ葉伸ビテ、少シ瘦セマ  
ル片、挑キ取リテ、乾スベシ、ニ番葉ハ、一番葉  
ト、同時ニ取ルベカラズ、上ヨリ漸々取リ起  
シ、次テ四五日ヲ隔テ、日光ヲ、葉ニ當テシメ  
テ、取ルベシ、又下邊ノ泥葉ヨリ挑キ起スモ  
アリ、而メ葉ヲ挑キ取ルハ、晴天ノ、日中ニ  
於テスベシ

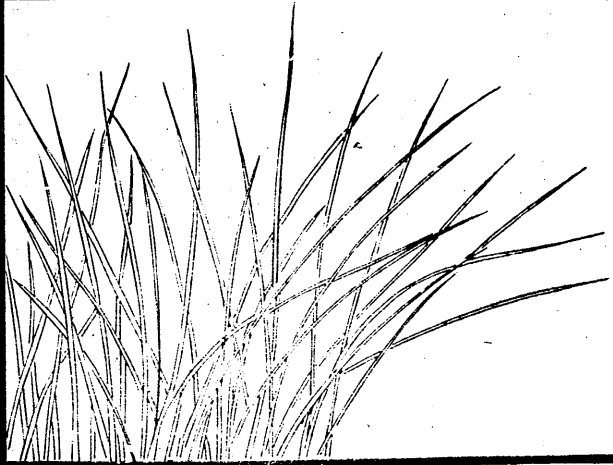
葉虫ニ、末香ヲ撒リ布ケバ、虫死スベシ、又苦  
參ヲ粉末トナシ、之ヲ水ニ合シ、簾ヲ以テ、之

ヲ葉ニ注グモ亦宜シ

一番葉ヲ挑キ取リ、傾テ多ク油粕ヲ入レ、大  
暑ノ烈日ニ當テシメ、立秋後ニ至リテ、挑ギ  
取ルヲ好シトス、ニ番葉ハ、五七枚ト定ム、其  
時ノ遅キモノハ、多クスベカラズ、多キ片ハ、  
中秋後、大風ノ時ニ、生長スルガ故ニ、風災ヲ  
受ケ易シ、然レ氏、處暑ヨリ白露ニ至ル中間  
ニテ、小芽ヲ抽發スルヲ考ヘテ、挑ギ取ルベ  
シ

第四十六 蘭

備後ノ法タル、來年蘭  
 ヲ栽ウベキ田ハ、今年  
 早稻ヲ刈リ收メテ、直  
 ニ耕スルヲ、稻ニ同ジ、  
 且ツ地ヲ勻耕シ、立冬  
 前ニ栽ウルヲ以テ、上  
 時トシ、是ヨリ漸ク逐  
 フテ、小寒マデモ栽ウ



ルナリ、十本許ヲ一株トシ、間隔ヲ、三寸餘離  
 ス、亦稻ノ異ナラズ  
 熟糞ヲ、時々上ヨリ灌グベシ、而シテ立夏マデ  
 ニ、十度灌クヲ以テ上田トス、蝗蟲ノ害ヲ防  
 ク、一專要ナリ、○刈獲ハ、大暑中、天色ヲ候フ  
 テ然スベシ、其法、先ツ田ヲ掘リ穿テ、其中ニ  
 於テ、白泥ヲ溶ク、濁酒ノ如クニナシ、蘭ヲ  
 其泥中ニ浸シナガラ、乾スベシ、二日許過レ  
 バ、全ク乾クモノナリ、是時、凡ソ二尺五寸ノ

繩ニテ、之ヲ束ネ、藁ニテ之ヲ包ミ、煤氣又ハ  
 熏烟ノ無キ處ニ、棚ヲ架シテ、閣ケ置キ、然ル  
 後、上、中、下ノ三等ヲ撰ミ分チ、以テ席ニ捆ル  
 ナリ○備後ニテハ、晚縮ノ苗ヲ備ヘ置キ、蘭  
 ノ科ヲ抜キ去リ、迅速之ヲ栽エテ、培養ヲ加  
 フレバ、率ネ時ヲ待テ、栽エタル縮ノ如シ、然  
 シテ、之ヲ刈リ取ルニハ、霜ノ置ク後チニ於  
 テスベシ

第四十七 茶

茶ハ、古代ヨリ我國ニ  
 産スルト、相傳フレ、  
 信スベカラズ、一説ニ、  
 僧榮西、支那ノ種ヲ傳  
 ヘ、僧明惠、之ヲ播キ種  
 エ、而シテ焙製ノ法、精  
 シクナレリト  
 凡ソ茶ハ、樹陰北向ノ  
 地ニ宜シクシテ、陽暖





ノ處ヲ好マズ、土地ノ強ク、黒土、赤土ニテモ少シク粘氣アリ、石之ニ雜ハリ、深カラズ、且ツ堅キヲ好ムモノナリ、茶園ヲ培養スル者ニ在リテハ、意ヲ此ニ注グベキヲ、專要ナリ、而メ肥料ハ、寒中ニ人糞ヲ根下ノ周圍ニ施シ、又芽ヲ摘ム以前ニモ、亦然スベク、而メ多ク肥糞ヲ施スニ隨テ、茶ノ風味自カラ宜シトス

茶子ヲ蒔クニハ、長蒔、圓蒔ノ二様アリ、長蒔

ハ、通常ノ畝ノ如ク、之ヲ耕治シ、其畦ニ三本毎ニ、之ヲ隔テ、蒔クベシ、然メ其中間ノ畦ニハ、穀類ヲ栽ウベシ、圓蒔ハ、馬鞋ノ大サニ、均シキモノヲ置キテ、其周邊ニ之ヲ蒔クベシ、一株毎ニ、種子三合許ヲ適度トスレバ、自カラ種子ノ善惡ニモ因ルベシ、種子ノ輕キモノハ、生長シ難シ、故ニ水ニ浸シテ、浮ベルモノハ、宜シカラズ、速ニ沈ムモノヲ好シトス、此物蒔時ヲ好マズ、大概、種子ヲ賣買スル

時直チニ蔭クベシ、少シ遅クハ妨グズ、是レ  
他ナシ、芽ハ、翌年立夏ノ比、發出スルヲ以テ  
ナリ、且ツ地底ノ堅キヲ好ム、コレハ命根下  
ラズシテ、枝葉共ニ榮茂スベシ、故ニ地底ノ  
軟ナル處ハ、其下ニ石、或ハ瓦ヲ敷クベシ  
地形斜ニ傾キテ、濕氣ナク、赤土ノ礫確錯リ  
テ、風霜烈シキ、陰地ヲ好ムモノナリ  
凡ソ茶ハ、立夏前ニ摘ムヲ早シトス、國土ニ  
依リテ、芒種マテモ摘ムベシ、其後晚茶ヲ摘

ムハ、夏至前ヲ上時トシ、夏至後ヲ下時トス、  
此時悉ク葉ヲ摘ミ取ルベシ、然ラザレハ、來  
年芽ヲ生ズルノ惡シト察スベシ  
焙製ノ法種々アリト雖、今之ヲ略ス、但シ  
晚茶ハ、其製尤モ容易ナリ、摘ミタル葉ヲ、沸  
湯中ニ入レ、少シ色ノ變リタル片、取り出シ、  
筵ノ上ニテ之ヲ搓ミ、青キ汁ヲ去リ、日ニ乾  
シ、再ビ之ヲ搓ミ、乾シテ、草包ニ納メ、熏烟ノ  
及フベキ、屋背ニ置クベシ○茶ノ斤量ニ、一

本ト云フハ、八貫目ニシテ、一斤ハ、二百目ナ  
リトス

第四十八楮

葉ノ刻缺深キヲ楮トシ、刻齒ナキヲ構トス、  
今專ラ裁ウル所ノモノハ、黒ヒヤウト唱ヘ  
テ、樹色紫ニシテ、葉ニ刻齒アリ、皮厚シ、軟ニ  
シテ白シ、又オブチト唱フルモノハ、葉ノ刻  
齒、黒ヒヤウヨリモ深ク、樹色青クシテ黒ク、  
枝長ク四倍ニ垂レテ、葉ノ色青キアリ、是亦

皮厚クシテ、肌膚潔白ナリ、此二種ハ、上好ノ  
紙ニ宜シ、此物ハ、南方  
ノ温暖ナル肥地ヲ好  
ミテ、礫土ニ宜シカラ  
ズ、栽ウベキ所ノ地ヲ  
定ムルヲ、甚タ專要ニ  
シテ、赤土ノ善ク肥ヘ  
テ、深ク、且ツ軟カニシ  
テ、南風ノ、能ク疏通シ



水ノ流下モ亦便ナルハ、楮地、於テ第一ナリ  
トシ、此外黒土ニテモ、少シ粘カアリテ、深ク  
且ツ肥タルヲ好シトス、總テ楮ハ、向陽ノ肥  
地ヲ好ミテ、礫礫ノ地ニ宜シカラズ、沙地ノ  
如キ、軟カニシテ、深キ處モ、一時能ク榮盛ス  
ト雖モ、久シカラズ、其生スル所ノモノハ、皮  
薄クシテ、得ル所少シ、適應ノ地ニテハ、少シ  
栽ウルモ、過分ノ潤益アルベシ、能ク之ヲ考  
察スベシ

苗ヲ作ル法、立春ヨリ、清明ノ間ニ於テ、嫩キ  
楮ノ榮ヘタル根ヲ掘リ出シ、箸ノ大サニ過  
キタルモノヲ、長サ一尺餘ニ切り置キ、畠ニ  
畦ヲ作りシ後、其間ヲ二三寸トナシテ、深ク  
地ヲ掘リ、苗頭ハ、二寸許地上ニ出ヅベク、栽  
エテ其上ヲ覆ヒ、少シ踏ミ壓シ、薄キ糞汁ヲ  
灌ギ、太陽ノ熱ヲ遮ギル爲メ、苴芥ノ類ヲ、覆  
ヒ置クベシ、然レバ、其芽出レバ、牛馬糞、或ハ煤  
茅等ヲ根下ニ置キ、土ヲ以テ之ヲ覆ヒ、其榮

エルニ随フテ、之ヲ移シ栽ウルナリ、允ソ一  
反ノ畠ニテ、能ク之ヲ培養スレバ、二萬本ノ  
苗ヲ作り得ヘシ  
楮ヲ栽ルノ法、山畠ニテモ、平地ノ畠ニテモ、  
凡ソ豎横ノ間、三四尺毎ニ、一本ヲ栽ウベシ、  
苗ニ大小ナク、其上頭相均シク、根端ヲシテ、  
向陽ノ處ニ達セシムベク注意シ、少シ深ク  
栽エテ、踏ミ壓スベシ、又苗ヲ、二三本モ一所  
ニ栽エタルハ、速ニ利分アルベシ、殊ニ風雨

ノ時、相共扶ケテ、折ル、一ナシ、梅雨中、最モ  
專要ナリ○苗ヲ切り取ルヲ、苗拂ト云フ、一  
度切り取ル一ナリ、然レ能ク存活スル片ハ、  
一二年ニシテ、土際ヨリ四五寸ヲ離シ、利鎌  
ヲ以テ、其切口ヲ、南ニ向ハシメテ切ルヘシ土  
ニ近ケレバ、終ニ腐朽シテ傷ム一アリ、能ク  
注意スベシ、蒸シテ皮ヲ剥グ一ハ、甑ノ長サ  
ニ應シ、鎌ニテ切り去リ、其大小ニ随、只兩處  
或ハ三處ヲ固縛シ、之ヲ甑内ニ入レテ、豆ヲ

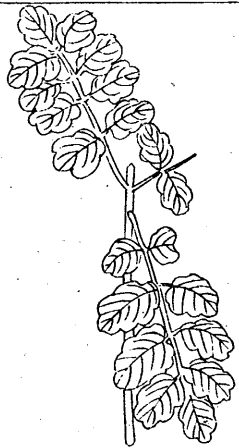
蒸スガ如ク、強ク蒸スベシ、能ク蒸セタル片ハ、蒸氣陸續昇ラズ、其香氣ノ甚シキハ、能ク蒸セタル標驗ナリ、然ル片ハ、切口ノ皮一寸モ、剥ゲ起ルモノナリ、是時數人集リテ、其溫氣ニ乘ジテ、速ニ之ヲ剥グベシ、其剥ク法ハ、其一方ヲ地ニ接ケテ、完抜セズ、完抜ハ皮ノ云フ皮ノ破レ裂ケサルベク、齊シク之ヲ剥キ、一握ヲ一把トシ、其齊シク列リタル、一方ヲ結びテ、竿ニ懸ケ、其能ク乾キタル片、一方

ノ結目ヲ解キ、又再ビ一方ヲ結び、又之ヲ乾カシテ、折レントスル片、煙熏ノ至ラザル處ニ、收メ置クベシ、其後モ、晴日ニハ、時々取り出シテ、乾シテ收ムベシ  
楮ハ、穀物ヲ種ウベキ畠ニ栽エテ、其傍ニ穀物ヲ種エ、多ク肥糞ヲ以テ、培養スル片ハ、潤利最モ多シト云フ

第四十九 漆

芳野ニ、漆ヲ栽ウル法アリ、其法、先ツ苗ヲ作

ルニハ、秋月種子ヲ收メテ、草包ニ納メ、常ニ水氣アル處ニ置キ、其上ヨリ水ヲ灌ギ、時々泔水ヲモ注ギテ、舊莖ノ類ヲ覆ヒ置ケバ、春ニ至リテ、少シク青芽ヲ發スル片、冬ヨリ耕シ置キタル苗地ニシテ、多ク熟糞ヲ灌ギ、平



漆ノ材 撥鎌ヲ以テ傷ツケタル圖

耕セル畦ニ、種子ヲ疎密ナク蒔キテ、肥土ヲ以テ、之ヲ覆フ。四分許ニナスベシ、然ル後、棚ヲ架シ、日障ヲ搭シ、天如シ早セバ、水ヲ注ギ、草アリト雖、之ヲ耘ラズシテ置テ、一年間、二年ノ後ニ至レバ、土ヲ帶ビタル根ヲ掘リ取りテ、移シ栽ウルナリ。○栽地ハ、麥、其他穀物ヲ栽ウベキ爲メ、五眼ノ形チニスベシ、麥ヲ刈リタル後、肥糞ヲ漆苗ニ施ス。一ハ、柄杓満盛ノ人糞ヲ、三本ノ根ニ灌キ、其後夏中

二、三度モ然スベシ、乾鯁亦宜シ、然レ尺、肥料  
過多ナレバ、却テ惡シ、冬ニ至レバ、常ノ如ク  
麥ヲ蒔キ、三年ノ後ニ至リ、麥ヲ刈リ終リテ  
後、初テ漆ヲ刺キ取ルナリ

刺取ハ、小満ヨリ、鉋ニテ、三方ノ内、四五度削  
リ、十本、十五本モ削リ、再ヒ篋ニテ刺キ取リ、  
搥油ニテ塗リタル筒ノ内ニ入レ、其満ルヲ  
見テ、之ヲ桶ニ移ス、○拂苗ハ、大雪ノ時、土際  
ヨリ、三寸許ヲ隔テ、兩方ヨリ切ルベシ、又一

説ニ拂苗ハ、春暖ノ頃、切ルヲ好シトス尺云  
ヘリ

二番生ハ、初メ苗ヲ栽エテヨリ、四年後ノ春  
ニ至リ、茅五七本發スルヒノハ、少シモ之ヲ  
切ラス、秋ニ入りテ、最モ肥長スヘキモノヲ、  
二三本相向ハシノテ、立テ置キ、一年ヲ隔テ、  
刺キ取ル上ニ同シ

種子ヲ寒霜後ニ取り置キ、兩水ノ頃、筵ニ包  
ミテ、水ニ浸シ置キ、春分ノ節、蒔クベキ以前



二、取り出しシテ、乾カシ置キ、堅キ苗地ニ肥糞ヲ施シ、麥ノ如ク蒔クベシ、秋ニ入レバ、根ヲ傷マンゾズ、鋤ニテ掘リ取り、五六本ヲ一把トシ、先ヅ假ニ栽エ置キ、麥ノ耕耘終リタル片之ヲ畦中ニ栽ウルナリ、是レ吉野漆三年刈ノ法ナリ

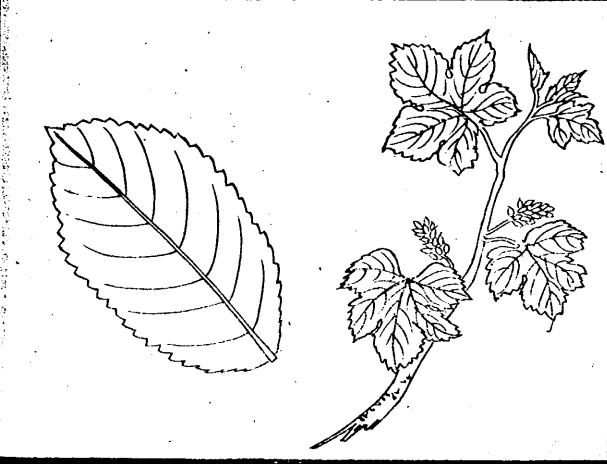
所々ニ栽エタル、巨大ノ漆樹ヲ刺キ取ル法モ、亦前ニ同シ、畠ノ中ニ栽エタル、好キ漆木ヲ有スル者ハ、其利潤タル、老人夫婦ノ食糧

ニ當ツベシ、千本ノ漆ヲ種ウレバ、千戸候ニ均シト、史記食貨志ニモ見ヘタリ

### 第五十 桑

凡ソ世人ノ大ニ重ズルモノハ、衣食ナリ、然レバ、穀物ニ次テ、必ず栽ウベキモノハ、桑ナリ、桑ニ二種アリ、其一種ハ、條幹伸長シテ、葉團クシテ、廣ク、且ツ厚クシテ、刻缺少ク、子實多カラサルモノ、漢土ニテ、之ヲ魯桑ト云フ、最上ノ品類ナリ、其一種ハ、枝細ク、堅フシテ

葉ノ刻缺深ク、菊葉ノ如クニシテ、椹子多ク  
 實ルモノ、之ヲ荊桑ト  
 云フ、魯桑ハ、蠶ヲ飼フ  
 テ、糸綿多ク、荊桑ハ、葉  
 薄ク堅キ故ニ、其利劣  
 レリ  
 桑ハ生ジ易ク、榮ヘ易  
 キモノ故ニ、年々好キ  
 種子ヲ蒔キ、苗ヲ多ク



生長セシメ置キテ、舊木ニ續栽スベシ  
 苗ヲ製スルニハ、椹子黒ク熟シタル片、之ヲ  
 取りテ接漬シ、水ニテ洗ヒ、之ヲ乾カシ置キ、  
 苗地ハ、菜畦ノ如ク作りテ、蠶糞、其外糞土、灰  
 ヲモ合シ、疎密ナク、蒔キ、少シク土ヲ以テ、之  
 ヲ覆フナリ、如シ早セバ、泔水ヲ灌キ、稠密ニ  
 生長シタルモノヲ、抜キ棄テ、又其後モ糞水  
 ヲ灌ギ、春ニ至リテ、移シ栽ウベシ、小寒ヨリ、  
 立春ヲ除クノ外、何時ヲ擇バズ、之ヲ栽エテ、

能ク存活スル、モノナリ  
椹子ハ、木年ニ生ジタルモノヲ蒔ク氏、皆能ク生長スベシ  
凡ソ桑ハ、大木ヲ善良トス、嫩木ハ、枝ヲ刈リテ之ヲ用ユルニ容易ナリト雖氏、蠶虫生長ノ後ハ、大木ノ厚キ葉ニテ、養ハサレバ、蠶虫肥ヘズ、因リテ多ク絲ヲ吐カズ、但シ其猶ホ細少ナル時ハ、嫩木ノ葉ヲ用ヒ、其壯大ナルニ及ベバ、老木ノ葉ヲ以テ養フベシ

以上ノ四種ヲ、名ケテ、四木ト云フ

農務小學卷之下 畢

明治十四年八月廿七日版權免許  
全十四年十月三十一日 刻成

閱正者

東京府  
高銳一

著述人

愛知縣士族  
石原吉孝  
尾張國知多郡加木屋村  
三十九番邸

出版人

同縣平民  
栗田東平  
尾張國名古屋鐵炮町  
百十三番邸